

犬の性格は飼い主に似る？大規模研究で証明

ヘルスケア

[この記事Websiteでみる](#)

犬の性格と飼い主の性格の類似性と犬の疾患との関連、飼い主の生活の質についてアメリカのWilliam J. Chopik氏らは、1681頭の犬とその飼い主について大規模調査を実施した。その結果、飼い主の性格と犬の性格は類似する（活発な人は犬も活動的であり、神経質な飼い主は犬も神経質で怖がりとなる）ことが明らかになった。結果はJournal of Research Personality 2019年4月号に掲載された。

人と犬の関係性は非常に深く、「最高の友達」と表現されることもある。人の性格が様々であるように犬の性格も様々であり、犬を迎え入れる際に家族の生活様式や性格と犬の気質が合うかどうかを検討する必要もある。近年、犬の性格を評価する試みが行われているが、犬の性格が飼い主の性格に類似して行くのか、犬の性格がその犬の予後に影響を与えるのか、犬と飼い主の性格が関係性の質に影響するのかなどについてはよくわかっていない。そこで著者らは1681頭の犬とその飼い主に対して調査を行い、犬と飼い主の性格の

類似性や犬の生存予後、飼い主の生活の質に与える影響について評価することを計画した。

1681頭の犬とその飼い主の性格について調査

本研究には1.5週齢から16歳齢（平均6.4歳）までの犬1681頭（約3割が慢性疾患に罹患）とその飼い主（平均24.6歳、約7割が女性）を組み入れ、性格に関連する心理学のアンケート調査を実施した。

◆ 犬の性格について

飼い主が犬の性格についてアンケートに答えた。飼い主が答えることによるバイアスが懸念されるが、このアンケートは過去の調査で飼い主が評価した場合とその家族や友人が答えた場合とで高い相関関係が認められたものを本研究で用いた。質問は合計45項目で、各質問に対して7段階（1：強く否定～7：強く同意）で回答してもらった。質問の種類は以下の5つの性格特性に分け、それぞれの種類の平均値を算出した。

- ① 恐怖に対する反応
- ② ヒトに対する攻撃性
- ③ 活動性
- ④ しつけに対する従順性
- ⑤ 他の動物に対する攻撃性

◆ 飼い主の性格について

飼い主の性格について本人がアンケートに答えた。質問は合計60項目で、各質問に対して5段階（1：強く否定～5：強く同意）で回答してもらった。質問の種類は以下の5つの性格特性に分け、それぞれの種類の平均値を算出した。

- ① 外向性：社交的かどうか、積極的かどうか
- ② 協調性：相手を思いやる行動をするか、利他的かどうか
- ③ 統制性：完全主義、達成動機が強いかどうか
- ④ 負の感情性：ネガティブな感情を抱きやすいか、神経質かどうか
- ⑤ 開放性：新しいこと、異なるものへの好奇心

◆ 評価

本研究では性格がもたらす犬の健康状態への影響や飼い主と犬の関係性の質などへの影響を評価した。飼い主と犬の関係性の質については、どの程度犬に対して親近感を感じているか、どの程度関係性に満足しているかを質問しそれぞれ7段階で評価してもらった。また、犬と飼い主の性格の類似性や犬の性格の年齢による違いについても評価した。

飼い主の性格と犬の性格は類似することが証明された

◆ 年齢による犬の性格の違いについて

- ① 恐怖に対する反応：年齢による違いは認められなかった
- ② ヒトに対する攻撃性：成犬は若齢犬と比べて攻撃性が高く、高齢犬とは有意差なし
- ③ 活動性：若齢犬の方が高齢犬と比べて活動性が有意に高かった
- ④ しつけに対する従順性：成犬は若齢犬と比べて従順性は高く、高齢犬とは有意差なし

- ⑤ 他の動物に対する攻撃性：高齢であるほど他の動物に対する攻撃性は低くなった

◆ 犬の性格と健康状態との関連性

関連性の認められた項目は活動性であり、活動性が高い犬ほど慢性疾患に罹患している犬は少なかった。また、しつけに対して従順な犬は慢性疾患に罹患しやすい傾向も認められた。

◆ 犬の性格と飼い主の性格の類似性について

- ・ 外向性の高い飼い主（社交性が高い飼い主）の犬は活動性がより高かった。
- ・ 協調性や開放性の高い飼い主（協調性が高い飼い主、好奇心旺盛な飼い主）の犬は、恐怖に対する反応が少なく、活動性が高く、ヒトへの攻撃性が低かった。
- ・ 統制性の高い飼い主（完全主義の飼い主）の犬はしつけに対する従順性がより高かった。
- ・ 負の感情性が高い飼い主（神経質な飼い主）の犬は恐怖に対して敏感であり、しつけに対する従順性が低かった。

◆ 飼い主と犬の関係性の質について

協調性の高い飼い主は、犬との関係性がより良好であった。また、活動性の高い犬やしつけに対する従順性が高い犬ほど、飼い主との関係性は良好であった。また、女性の飼い主や高齢犬の飼い主は、犬との関係性がより良好であった。

結論

これらの結果から著者らは、飼い主の性格と犬の性格には類似性が認められたと報告している。飼い主の性格が犬を選ぶ時に性格の類似している犬を選択しているのか、飼い主の性格が犬に影響を与えているのかが今後明らかにされていくことが期待されるとしている。

論文情報

<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0092656618301661>

※正確な論文の解釈をするためにも原文を読むことをお勧めいたします。